

総合特別区域の進捗に係る評価
[アジア拠点化・国際物流分野]

令和3年度

ながさき海洋・環境産業拠点特区

[指定：平成25年2月、認定：平成25年11月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(2+2.3)/2=2.2$

2.2

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	県内造船所による高付加価値船・省エネ船の建造量	75%	3
2	県内造船所による環境関連機器の取扱件数	50%	2
3	県内造船所が建造に携わったあるいは県内に設置された海洋再生可能エネルギー利用発電設備の総設備容量(累計)	38%	1
4	海洋再生可能エネルギー実証プロジェクト実施件数(累計)	0%	-

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 0 + 4 \times 0 + 3 \times 1 + 2 \times 1 + 1 \times 1) / 3 = 2$

2.0

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

2.3

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 $(2.7+3.5+4)/3=3.4$

3.4

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

2.7

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.5

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

4.0

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

2.5

・評価指標(1)と(2)のいずれも、韓国・中国による低船価の煽りで県内主要造船会社3社のうち2社が新規造船事業の縮小・撤退となったことが大きく影響しているようであり、そうすると、今年度のみならず来年度の目標達成もかなり厳しいものになると危惧される。特に建造量に関しては、減少傾向にあるだけでなく、初年度である平成29年度の実績値を大きく下回っている。厳しい状況にあることは理解するが、目標達成に向けてどのような取り組みが可能なのか、再度、具体的にしっかり検討してほしい。また、評価指標(3)に関しては、当初からほとんど増加が見られず、設定した目標に対して何が足りていないのか明確にした方がいいのではないかと。浮体式洋上風力発電を建造中とのことで、今後、このウィンドファームによる発電が期待されるが、いつから稼働予定なのかを含め、今後の見通しを可能な範囲で説明してほしい。

・全体として目標未達である項目が多く、その原因として外国(特に、中国および韓国)との競争激化が挙げられているが、同要因は計画当初から分かっていることであり、それが故に長崎が優位性を持つ高付加価値船・省エネ船に活路を見い出すべく、本プロジェクトが立ち上がったものと評者は理解しております。よって、原因としてはどうして高付加価値船・省エネ船の需要喚起および売込みが上手く行っていないのかをより明確にして頂くことと今後の方針に役立つと思います。一方で、ロシアによるウクライナ侵攻によって、再生エネルギーの重要性が急激に高まる中、五島市沖浮体式洋上風力発電ウィンドファームが運転開始に向けて着実に進んでいることは朗報である。風力発電一般については近年では中国が先んじている模様であるため、本プロジェクトの更なる拡張・発展に期待したい。

・評価指標(1)(2)の高付加価値・省エネ船の新造船建造量、環境機器取り扱い件数はともに同様の傾向で推移しており、主要企業の新造船の縮小の動きに左右されているように見える。高付加価値・環境対応への新しい強みのある造船業へのシフトを測るという点では、今後の課題として、これら指標の再検討が必要になってきているように思う。依然として造船業の競争環境が厳しいなかで、国際的な温室効果ガス排出規制の強化に向けて技術的優位性を継続・発展させていく取り組みの重要性は高い。規制の特例措置のさらなる積極的な活用や、海洋再生エネルギー関連企業との連携という本特区の特性に基づいた国内外の環境関連企業の積極的な誘致などで、技術的な優位性、人材育成やサプライチェーンの維持・拡大の試みが期待される。

・海洋エネルギーという未来への貢献が大きな分野であるので、現状では高いリスクのもとで行っていることは否めないが、もう少し進捗が見えることが望ましい。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

2.5

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(2.2+3.4+2.5 \times 2) \div 4 = 2.7$

2.7

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

・評価は5～1(評点)で行う。

・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。

・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。